

第55号

平成30年
5月1日

題字
植木 満
初代東進会会長

東進

発行所

土浦一高東進会

〔茨城県立土浦一高
進修同窓会東京支部〕

発行人

東進会会長 飯塚 哲哉

事務局 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-4 砂防会館別館6階

宮崎法律事務所 気付 東進会事務局

TEL (FAX) 03-5421-5321

E-mail : toshinkaisecretary@gmail.com ホームページ <https://to-shin-kai.jimdo.com>



提供 青木 功 (フォトグラファー 昭和50年卒)

- 「ベーゴマを科学する」
～現代のベーゴマ～
高橋 克己 (昭和50年卒)
- 「パワーリフティングとの出会い」
宮本 英尚 (昭和41年卒)
- 第11回アカンサスクラブ講演録
「多様化したメディアと企業経営」
堀越 智也 (平成6年卒)

- 第12回アカンサスクラブ講演録
「子育てネットワークによる地域の
活性化とヨガによる健康づくり」
柳沢 留美 (平成7年卒)
- リレー放談 第5回
「食を囲む人の輪」
藤井 麻美子 (平成9年卒)
- 平成30年度 総会・懇親会ご案内

ベーゴマを科学する

〜現代のベーゴマ〜

高橋 克己(昭和50年卒)

なぜベーゴマはおもしろい

ベーゴマというものは、昔も今も、ひとたび回せるようになると、とにかくおもしろい。逆円錐形状の金属の塊に紐を巻き付け、その紐を素早く手前に引いて回転させ、中央を窪ませたキャンバス地の上でぶつけ合せて勝敗を決するベーゴマ。そんな単純な玩具が何故おもしろいのか。

ひとつには、ベーゴマを回すプレイヤー(老若男女)が自分の力量(おもに瞬発力)を少しの努力で伸ばし続けることができる点にある。小さい子どもでも体の大きな大人を負かすことが出来るし、高齢者が若者に勝つたりもする。ベーゴマ回しが上手になると、ベーゴマの大きさが同じぐらいであれば8歳の子どもが大人に勝つことも、10歳の少女が屈強の男性を負かすこともできる。熟達すれば、年齢性別や体格に関係なく相手を打ち負かすことが出来るなんて、これほどおもしろい競技・ゲームが他に在ろうものか。

もうひとつのおもしろい理由は、戦闘力のあるマシン(ベーゴマ)を創意工夫で作り上げていくことにあつた。ベーゴマは溶けた鉄を砂型に流し込んで製造する鑄造品であるがた

めに、寸法精度があまく、そのままでは回転バランスが不十分で長時間は回らない。たとえば、八角形のベーゴマの外周面をヤスリ掛けして整えたり、本体下側の円錐部をヤスリ掛けして削り取って重心を低くするなど、試行錯誤(実際には crash and burn)して安定して回る自分だけのベーゴマを作り上げるのも醍醐味である。ベーゴマ達人・名人と呼ばれる人たちの秘蔵のベーゴマは総じて下側を八角錐に研ぎ上げてあり、重心が低く回転バランスが良い。

このように、ベーゴマがおもしろい所以は、どうやら自らの努力によって伸ばすことが出来るプレイヤーの力量と、創意工夫を凝らし究極にカスタマイズされたベーゴマ自体の性能とを掛け合わせた総合力が勝敗を左右する、という事実にあるというところがわかる。云わば、プレイヤーとベーゴマ(マシン)の総合力の対決が、あたかも、ドライバーとマシンの総合力で競うカーレースのように勝敗を決する。しかも一瞬もしくはは短時間で簡単にその興奮が味わえる。これがベーゴマの本当のおもしろさである。

子どもが大人に勝てるのは何故?

ベーゴマで子どもが体の大きな大人に勝てるのは、以下の事実に因るところが大きい。一言でいうなら、ベーゴマの重さが子どもが紐を引くスピードを鈍ら

せない範囲内にあるからである。

ベーゴマは高速回転させるほど運動エネルギーが蓄積され、ぶつかつたときの打撃力は強くなる。ベーゴマを高速回転させるには、腕を伸ばしてベーゴマを放したのちに、素早く手前に紐を引き戻すスピードが必ず要だが、紐を素早く引き戻すスピードは腕力ではなく、瞬発力が重要となる。小学生高学年ともなると、瞬発力は十分に発達し大人に引けを取らない。これゆえに、子どもが自分より体の大きく腕力も強い大人に、しばしば勝てるのである。

瞬発力については、伸ばした腕を手前に引き付けるスピード(瞬発力)は、素手の場合でも50gの物体を持った場合でもほとんど差が無い。市販されている鑄物製のベーゴマの重量は、ほとんどが50g以下で軽量である。この重量は、ベーゴマ回しに熟達した子どもが発揮できる紐を引くスピードを鈍らせない範囲内の重さなのである。熟達した子どもが50gのベーゴマを回すと、最高回転数は6000rpmを超え、腕力に自信のある大人がいくら回しても瞬発力が無ければなかなか6000rpmを超えることが出来ない。ベーゴマの回転数が高いほど運動エネルギーは大きいので、ぶつかり合えば必ずと回転数が高い方が勝ち、低い方が飛ばされるのは物理法則のおりなのである。

ベーゴマが衰退している理由

鑄鉄製ベーゴマは、玩具として大正時代から次第に普及し始めた。多くの鑄物製造業者(かつて鑄物の街といわれた埼玉県川口市だけでも60社を超えたという)が競ってベーゴマを製造し、製造コストが比較的安く抑えられ、買いやすい価格で市場に流通するようになった。このため、駄菓子屋でも子供向けに販売され、昭和に入るところから爆発的に広く普及し、最盛期には年間100万個以上の需要があつたという。

これほど人気のあつたベーゴマが何故衰退していったのか。時代の趨勢と言ってしまうればそれまでだが、ベーゴマ自体や遊び方にも理由があるが、大きな理由の一つは、紐巻きが難しく、うまく回せずおもしろさを知らずに終わってしまう人が多いことにあるのではないだろうか。

ベーゴマは本体下側の円錐部に巻き付けた紐を素早く手前に引いて回転させて回すわけだが、まずこの紐の巻き方が簡単ではない。直^{2.5}ミリのタコ糸に結び目(コブ)を、一端から5cmぐらいの位置に雌巻では5〜10ミリ間隔で2つ(雄巻では1つ)予め作っておき、その結び目をベーゴマの円錐部の頂点近くに位置させ、その結び目をアンカーとしてタコ糸を巻き付けていく。この紐巻きが意外にというか、やはり難しく、習熟するのに相当の根気が必

要である。

さらに、最近の鑄鉄製ベーゴマは表面に鑄止め処理がしてあるため表面がなめらかで、紐がベーゴマ表面をすべりやすく、紐巻きをより難しくしている。ベーゴマ教室に来る子供たちも半数近くが紐の巻き方を習得できずに挫折してしまう。紐巻きが難しいという最初のハードルが高いことが、ベーゴマの普及を妨げてきた大きな理由の一つなのである。



もつと手軽に、もつとエキサイティングに

筆者は2年ほど前に数十年ぶりに子どもとベーゴマをする機会があった。多少の自信をもってバトルに臨んだが全く勝てない。ベーゴマが悪いのかと思い、1カ月も時間をかけてヤスリ掛けし、回転バランスを完璧に整えた。それで半分くらいは勝てるようになった。でも「半分」だった。ベーゴマが完璧になったのに、なぜ「半分」なのか。それは、子どもの方が瞬発力に優れ、紐を引くス

ピードが速い。ベーゴマの回転数が高いからだということが分かった。そしてはたと思つた。もつと大きくて重ければ、こちらにも有利な領域で勝負ができるのではないか。100年の歴史を経て今の形や遊び方があるベーゴマだが、現代的な視点で俯瞰すると、ベーゴマ自体にも遊び方にもまだまだ進化発展させる余地がある。紐が巻きやすく、ベーゴマ自体が持ちやすい大きさ・形状・重さなら、瞬発力が衰えた大人でも子どもに勝てるのでは!と考えた。そして短時間でカスタマイズが容易にできる組み立て式の「新たなベーゴマ」を開発した。



【組み立て式 全金属製 超精密ベーゴマ】の登場

従来のベーゴマは、大きいものでも直径約37ミリ・重量55g以下である。この既成概念にとらわれることなく新しいベーゴマのスペックを検討した。

まず大きさは、大人でも持ちやすいくらいの、直径40〜48ミリ。手の大きい人でも扱いやすく、子どもでも十分に回せるサイズである。重さは、瞬発力に加えて引き戻す力も必要とされる65〜105g。さらに組み立て式として、重量を5g毎に変えられる重量調整機能も盛り込んだ。これによって、自分の瞬発力(スピード)が落ちない範囲内なるべく重い重さに設定できる。

この新しいタイプのベーゴマは、究極の回転バランスを実現するために、それぞれの金属パーツをCNC(Computerized Numerical Control)複合切削加工機で金属丸棒から切削加工により製作して、それらを同軸に組み立てる構造の「組み立て式ベーゴマ」メカニカルベーゴマである。外観形状は逆円錐形で従来のベーゴマと同じである。

さらに、この組み立て式ベーゴマは、誰でも紐を簡単に巻けるように、本体下部にボビンのような構造(紐巻き用の溝)を備え、紐に結び目を作らなくても紐を正確な同心円状に巻ける構造となっている。これによって全くの初心者でもすぐに紐が巻けてベーゴマを回せるようになった。プレイヤーが力量に合わせて最適

重量にカスタマイズできる新たなベーゴマは、総重量65〜105gで優れた「瞬発力」に加え「引く力」も要求される。速く回転させるためには回し手に高い身体能力を要求するメカニカルベーゴマの出現である。

これから

鑄鉄製ベーゴマは長い間盛衰を繰り返しながらも生き続けてきたが、ここに来て概念と製造方法をかえた【組み立て式 全金属製 超精密ベーゴマ】が新たに加わった。この組み立て式ベーゴマと専用の台を販売する会社を2017年1月に立ち上げ普及に努めている。人種、年齢、性別、また健常者や障害のある人々、どんな人にも気軽に楽しんでもらえるNew Generation ベーゴマを提供することにより、人々に楽しみと健康をもたらす一助になればと思つている。



パワーリフティングとの出会い 宮本 英尚(昭和41年卒)

小生とパワーリフティング競技との関りは、学生時代に柔道をしていたことから始まります。強化運動としてバーベルを使用しての筋トレの実践をしてきたからです。大学時代には、パワーリフティング・ボディビルクラブに所属して活動してまいりました。

パワーリフティングは、バーベルを使ってその拳上重量を競うスポーツです。特に、人の基本的な運動要素『立つ』、『押す』、『引く』の動作を行うウェイトトレーニングの種目を競技化したものです。「スクワット(脚力)」、「ベンチプレス(腕力)」、「デッドリフト(背筋力)」の3つの競技種目で構成されています。各種目3回ずつ試技を行い、各種目の最高記録を合計したトータル重量で順位が決まります。順位は、男女別に、体重によって決められた階級ごとに、又、年齢に応じたカテゴリーごとに決めます。

このスポーツは14歳以上から70歳を超える幅広い年齢層を対象にしています。単純な動作による競技であることから、男女を問わず誰でも参加できるものであり、体力や年齢に併せて無理なく記録に挑戦できる特徴があります。従って、選手寿命も長く、生涯スポーツとして楽しみ

ながら続けることが出来るとともに、高齢化に伴う体力低下を抑える効果も充分期待できるスポーツです。

パワーリフティングは、1920年頃にアメリカで行われたボディビルダーの力比べを源流とし、1950年代に現在の形にまとめられました。1971年に国際パワーリフティング連盟(IPF)が結成されてから各国に普及して行きました。

日本では、1972年(昭和47年)に日本パワーリフティング協会(JPA)が設立され、1994年(平成6年)には現在の公益財団法人日本体育協会に加盟。平成25年4月時点で、27の地方協会が道府県協会に加盟しています。国体関係では、1998年(平成10年)の神奈川国体で初めてデモ競技として参加しました。2015年(平成27年)に開催の和歌山国体から公開競技として実施されて来ております。

尚、JPAは1999年(平成11年)に社団法人として設立が許可され、2013年(平成25年)4月1日に公益社団法人として許可されました。パワーリフティング協会には学生時代から学生連盟の役員として参画していましたが、大学卒業後は会社生活が忙しいこともあり、又、転勤族として地方勤務もあつた為、協会では理事として関係して来ました。本格的に協会に会長職として係わったのは7年前からです。

毎年実施されます全国大会が国内で12大会、世界・アジア大会等の国際大会で10大会、ボランテニアとして参加しています。現在は、体育協会・JOC等の入居している事務所のなかにあるパワーリフティング協会にウイークデイは出勤し、週末は大会等のために出張する生活で忙しく過ごしております。

来年は、日本(東京)で世界ベンチプレス大会開催を予定しておりますし、パワーリフティングの茨城県体も、つくばで開催するべく県関係者といろいろと取り進めています。2020東京オリンピック・パラリンピックの関係もありますので、当面はこちらに忙殺されながら、老体に鞭打って頑張り、関係各位の絶大なご協力を得て、何とか恙無く終了出来るように願っている次第です。

2020東京オリンピック・パラリンピックにおいては、障害者のパラリンピックにパラ・パワーリフティング競技として正式種目になっていますので、是非共応援を宜しくお願い致します。因みに、パラ・パワーリフティングの会場は東京国際フォーラムです。

健康者の大会はまだオリンピック競技にはなっていないので、2020東京オリンピックには間に合いませんが、正式種目に採用してもらえれば世界連盟共々機会をとらえてIOCに対して陳情活動している状況です。

高齢化社会に伴い、健康維持・増進のためにもスポーツは不可欠だと思っております。無理のない筋トレは極めて効果的ですので皆様も是非実践して頂き、おたがいに元気に余生を送れるように願いたいものです。



第11回アカンサスクラブ講演録

「多様化したメディアと企業経営」

堀越 智也(平成6年卒)

平成29年12月7日、アカンサスクラブにて、同タイトルで講演させていただいた内容についてご報告させていただきます。

私の本業は弁護士なのですが、つくば市を含めた地域を活性化するための法人を立ち上げたことをきっかけに「ラヂオつくば」の番組を担当することとなりました。その後、つくばセンタービル1階に事務所を構えたところ、2階に「ラヂオつくば」のスタジオができ、その頃から、「ラヂオつくば」との関わりが深くなっていきました。

そんなある時、「ラヂオつくば」の経営が思わしくなく、新しい社長を見つけていることになったことを知りました。私は、子どもの頃からラヂオが好きでしたし、「ラヂオつくば」の経営が破たんすれば、地元から公共の電波がひとつたびなくなるかと、再度取得することが難しくなるので、新しい社長を見つけようと思いました。ところが、なかなか引き受けてくれる人がおらず、最もラヂオを愛していた1人である私が、社長を引き受けることになりました。

このように書くと、仕方なく引き受けたように思われるかもしれませんが

んが、株式会社である「ラヂオつくば」の社長になることで、株主総会を自ら開催したり、契約書を作成したりと会社法や民法を深くかつ実践的に学ぶことができ、本業にも役立つものでした。また、ラヂオ局の社長になることで、放送法や電波法等、特殊な法律を学ぶことにもなり、本業の幅を広げることにもなります。そして、なにより大切だったことは、経営を立て直すことができると思っただことです。

調べてみたところ、「ラヂオつくば」の1ヶ月の経費は約100万円でした。そして、つくば市や地元の企業から毎年スポンサー料をいただいていることを考慮すると、30分の番組枠を1万円で買い取ってくれる人や企業が50あれば、経営は立ち行くだるか、借金も返していけると判断しました。番組枠をいくらだったら買ってくれるかは、地元の人々のリサーチをあらかじめしていたので、1万円が妥当だろうという結論に至っていました。また、私のような地元の経営者が何人か集まり、営業をすることで、スポンサーになったださる企業も少しずつ増えるだろうと考えていました。

スポンサー料も、例えば飲食店であれば、1万円いただいた場合、その飲食店の原価率が50%であれば、必ず2万円分のお客さんが増えるように努力するように、と考えて金額を設定しました。

このように、経営者、消費者の経済感覚をできる限り把握し、スポンサー企業と「ラヂオつくば」の双方にプラスになる金額を見つけるように努めました。

さらに、ラヂオが多様化したメディアの中で、有用なコンテンツであると理解してもらうことも大切でした。私が考える、経営者が経営、さらには集客を中心とした営業をするにあたって、役に立つメディアの多様化した歴史の整理の仕方は、次の通りです。

インターネット系では、Windows 95やポケベル↓ガラケー、インターネット↓高速化したインターネット、↓ミクシィ、ツイッター、Facebook等のSNSの台頭、クラウドでの情報管理↓スマホ。メディア系では、ラヂオ↓テレビ↓衛星放送↓ケーブルテレビ↓Youtube やネットラヂオ等、インターネットによる動画や音声の配信。

このような大枠を把握して、新しいものだけを利用するのではなく、各業種にとってどの組合せがよいかを考えて、同時並行で利用することが経営、さらには集客を中心とした営業にとって相乗効果を生じさせ、効果的だと思うので、「ラヂオつくば」としても多様化したメディアをうまく組合せることを試みますし、スポンサー企業や番組を担当してくださる企業にも、多様化したメディアの利用の仕方を提案していこうと考えて

ています。以上のような「ラヂオつくば」という「地方」の「中小企業」の経営に関わることで、これからの地方創生の時代、地方で経営者として生きていくにはどうすべきかが少し見えしてきた気がしました。各地方の経済に即して、多様化したメディアを利用することは、とても重要になってくると思います。そこをさらに掘り下げて、具体的な検討をしたいところですが、時間に限りがあるので、これから高校の同窓生の皆様と語っていききたいので、是非よろしくお願いたします。



第12回アカサスクラブ講演録

「子育てネットワークによる地域の活性化とヨガによる健康づくり」

柳沢 留美(平成7年卒)

○自己紹介

大学進学卒業後、大手生命保険会社に就職。9年間勤務し、子育てと仕事の両立の壁により、長女出産後離職。第2子出産後、自身の経験から、産後女性のケア、また赤ちゃんからの体づくりの重要性を伝えていく必要性を感じ、2011年より現在の活動を開始。ヨガを通じた健やかな身体作り、母子の良好な関係作りのためのイベントを開催している。同時期より「もりや子育てネットワークまもり」を仲間とともに発足し、2017年一般社団法人化。子育て情報誌発行や地域と多世代をつなぐイベント企画などを行う。

○「やってみたい、あったらいいな」が現実

自身の子育て中、行政発行の情報誌からは得ることのできない「口コミ」情報の重要性を実感。他にはない「ママ目線」で必要な細かな情報を、「その一冊を見れば一覧になっていてわかる!」というものがあればよいと感じていた。キリン福祉財団の助成金を獲得し、「もりやで子育て幼稚園・保育園Guide Book」を発行し、無償配布。以降、助成金や寄付金を活用し、地域の子育て世帯に密

着した「小児科・産院の情報誌」、「子連れにやさしいレストラン情報誌」などを発行。延べ十数万部無償配布してきた。ママ目線の子育て情報誌発行のほか、子どもと一緒に楽しく防災を学ぶ「Asobosai」の活動や、幼稚園保育園の保育参観の親子活動など、幅広く活動している。

○「一般社団法人子育てネットワークまもり」のイベント

子育て中のママにとって、行政主体の子育て支援センターは敷居が高く、またママ友づくりに苦手意識を持ち、自宅に引きこもりがちの方もたくさんいる現状がある。毎日利用するスーパーやショッピングセンターのような動線に、気軽に立ち寄り、必要な情報が得られる場があればよいという思いから、2回ショッピングセンターのイベントホールや売り場中央の催事広場を使用し、1日間に3日間の来場者300名、2000名のイベントを開催している。

2012年より毎年10月「いいお産の日」イベントを開催。イオンタウン守谷にて、地域の小児科医・助産師・栄養士などの専門家のお話会や赤ちゃんや保育者の体を傷めない抱っこやおんぶの講座、体づくりの講座などを開催し、1日間で300名が来場している。また、東日本大震災を契機に、自身の住む地域の放射線量が高く、外遊びをさせてあげられない現状に直面。室内でも自然

に親しむ遊びの効果に着目し「室内で子供たちが存分に自然に親しめる広場があったらいいな」という仲間との思いから、木育活動をスタートした。2014年よりイオンタウン守谷にて東京おもちゃ美術館トイキヤラバンを招致し「木のおもちゃ広場」を開催。3日間で延べ2000人以上が来場する一大イベントとなっている。

○個人としての活動について

2011年より、「赤ちゃん和妈妈の良好な関係作りと体と心のケア」を中心に活動。

「健康な心は健康な体に宿る」心身一如の考え方のもと、産後のお母さんは育児や出産後の不調に悩まされていることが多く、疲れた体では子育てに向かう気持ちも暗くなってしまう。そのような状態が続くと、育児ノイローゼや育児放棄等につながっていく可能性もある。お母さんの育児疲れや体の不調の改善をお手伝いすることで、社会の悲しい事件も減り、育児疲れが解消できると子育てがもっと楽しく感じ、ママと赤ちゃんの良好なコミュニケーションづくりに貢献できるのではないかとこの思いから、主に茨城県南地域を中心に、赤ちゃんやママの体と心を健やかに保つ「ベビーヨガ」や、産後女性の体を整える「骨盤調整ヨガ」のクラスを開催している。

2012年より年6回「つくば市

子育て総合支援センター」や2015年より年6回「つくばみらい市社協きらくやまこども広場」、また常陸太田市健康まつりにて「防災にも役立つ赤ちゃんのやわらか抱き方講座」など茨城県内の行政主催の子育て支援事業にも関わってきた。

その他、多世代交流の場としてもヨガクラスを開催し、老若男女幅広い方にご参加いただけるようなクラス開催をしている。

○今後の展開について

今までの活動をさらに発展させるため、2018年度は第5回目となる「木のおもちゃ広場」と茨城県やつくば市などの行政、企業、NPO団体などにブース出展を依頼し、地域に密着した子育てイベント「第1回すくすく子育てフェスタ」をイースつくばにて初開催する。行政、企業、NPO団体など地域みんなを巻き込み、子育て環境をより良く高めていく一助となるべく活動を広げる。

「子育て支援」という、公共性の高い活動であるが、今後も引き続き継続していくためには、自分たちの事業として、活動資金を確保していくため、さらなる展開を広げるべく奮闘している。

○最後に30分のヨガ体験

その場でできる簡単なヨガの動きで体をストレッチする体験をした。

(平成30年3月1日実施)

リレー放談 第5回

「食を囲む人の輪」

藤井麻美子(平成9年卒)

今号で私が小野先輩からバトンを受け取ったのはお酒の席でした。ほぼ記憶がない点がお恥ずかしいのですが、そもそものきっかけは2016年に、東進会当番幹事を平成9年卒が行った際、たまたま刺さった白羽の矢がご縁でここに至っております。諸々至らず恐縮ですが、根本は母校に何かしら協力したい想いですので、何卒お手柔らかに受け止めて頂けると幸いです。

そんな私、今は友人達との食事会を1つの趣味とし、マイペースで暮らしておりますので、今回はその点に触れながら書くように思います。今でこそ外へ出向くようになりましたが、元は茨城の、水も空気も清らかな田舎で悠々のほほんと育った少女時代でありました。

そんな娘も大人になり、大学生活を経ましたが、社会に出始めの頃はぼつねんと、淋しく、どうやって過ごそうか迷ったものでした。が、そんなとき、外への窓が開かれたのは、趣味で利き酒資格を持つ女性の方が、日本酒の会というものに誘ってくれたことでした。当時、日本酒のことはほぼ、何んにも判らず、お店の方が美味しい旬の料理を出してくれて、お酒も何種類も出て、しかもどうやらお得らしい、というだけであ

いて行きましたが、集う人は同類、そこから人の輪が広がるものですね。その席にいた人からご紹介を頂き、さらに別の食事会、料理教室、果物狩りと連れ出して頂き、ご縁はわらしべ長者の如く膨れ上がり、今に至ります。これらについていく胃腸も幼い頃から食した母親の手料理、祖父の酒の肴の賜物かな、と思っております。今ではすっかり淋しさも忘れ、キリギリスと化しているため、蟻に戻れるよう努力中です。



こういった会で面白いのは、性別はもろろん、自分と全く異なる職種、年齢、趣味の方々と、美味しい食という共通点だけで知り合い、自分の知らない世界の話を聞けることです。グルメ編集者の話、パイロットの生活、起業したきっかけ、イタリアンジュエリーについて、マスコミの舞台裏等々：まあ飽きないものです。仕事の話をガツガツとすることもなく(セールスなども、してもよいのでしようが、暗黙的に皆、したがらない)、聞けば教えてくれるが、むしろ業界のアンチ&ニッチ情報の方が面白かったりもします。とはいえメインは、新しく出来た何処其処

の店は値段の割にああだこうだ、の情報交換ではありませんが(笑)。

これら情報流通の下支えの1つが昨今のSNSです。いやはや非常に便利な世の中になりました。全てがスピーディ。知り合いの誰かが募集した食事会が、小1時間もしないうちに瞬時に満席になるのを見ると、衝撃と同時に畏敬の念を感じます(同時に乗り遅れた悲しみも)。おかげさまで挙手判断の瞬発力(だけ)は鍛えられました。SNSは人集めにもひと役買っており、東進会、クラス会然り、卒業後散り散り離散した行方不明の同胞をSNSで発掘できた、現実には会えてはいないがその人の近況が判り安心する、取ろうと思えば連絡もまあ取れる、というのは画期的な時代です。よく、昔と比べ人間関係の希薄さが、等とも言われますが、その分世界が広がったのかな、とも解釈しており、私個人としては深い心配はしておりません。

さて一方、東進会についての食といえは「謳酔会」があります。私も時折参加させて頂いておりますが、こちらへのきっかけは、何を隠そう、鰻でした。実は、鰻は私の、最大弱点の1つなのです。毎年謳酔会人気の回でもあります。一発で魚籠入りしました。全国津々浦々、名店も多いですが、茨城は霞ヶ浦、昔は利根川から天然鰻も取れたと聞きます。再びこの水に戻ってきて欲しい、そんな内なる野心の炎も消えてはお

りません。



鰻の山ぎしのうな重

母体の進修同窓会共々、明晰優秀な同胞を毎年数多く輩出し、海外でも活躍する人材を産み出している母校は大きな誇りですが、輩出ののち再び戻る場所が無いのはそれに勝つて悲しいこと。東進会の新陳代謝もですが、これまでの歴史に生命の息を吹き込み「続ける」のも、生命という輪の一つのかなあという気もしております。ちなみに鰻はビタミンEを多く含み、美容と代謝にも良いようです。ぜひ霞ヶ浦に鰻を、東進会にも若い血潮を。

スマートユーモア小野先輩のゴルフ談義からバトンを受け継ぎ、何とか私もここまで辿り着きました(振り返ると5月発行55号、ゴーゴーゴの回であり驚いております)。次回は、これまた謳酔会BBQでお会いしました昭和58年卒の柳一榮さんにバトンをお繋ぎ致します。

平成30年度 総会・懇親会のお知らせ

- ・ 日 時 : 平成30年6月10日(日曜日)

11:00 受付開始

12:00 母校弦楽部による演奏

12:20 母校応援指導部による演舞

12:30 総 会

13:10 講 演

13:40 落 語 「土浦一高東進会 Facebook」ページで最新情報
提供中です。ぜひご登録ください。

14:15 懇親会

15:30 閉 会 ホームページ <https://to-shin-kai.jimdo.com>
- ・ 場 所 : 学士会館 210号室

千代田区神田錦町3-28 03(3292)5936
- ・ 会 費 : 東進会年会費3,000円 【同封の振込用紙をご利用ください】

懇親会費7,000円
- ・ 講 演 : 「福島問題と将来への教訓 ～哲学の視点から～」

一ノ瀬 正樹(昭和51年卒)

前東京大学大学院哲学研究室教授

現武蔵野大学グローバル学部教授
- ・ 司 会 : 伊丹 牧子(平成7年卒)
- ・ 落 語 : 立川 志のぼん (本名 廣瀬 敦 平成7年卒)

2005年1月立川志の輔に入門。2013年4月二ツ目に昇進)
- ・ 当番幹事 : 五十嵐 朝青(平成6年卒) 伊丹 牧子(平成7年卒)

緒方 浩一(平成7年卒) 藤井 麻美子(平成9年卒)

編集後記

アカンサスクラブについて
大野名誉会長(昭和31年卒)の発案で平成26年から開催されています。講演会と懇親会を通して、いろいろな世代の卒業生の交流が目的です。年3回3月、9月、12月の第1木曜日に、飯塚会長のザインエレクトロニクス株式会社の会議室をお借りして行っています。今回は9月6日(木)午後7時からのお予定です。講演者はまだ決まっていませんが、皆様のスケジュールに入れていただければ幸いです。また、こんな卒業生の話を聞きたい、等のご希望がありましたら、花上実行委員長までご連絡ください。

いよいよ2年後に東京オリピック、パラリンピックが開催されます。今号ではパラリンピックの種目の一つであるパワーリフティングについて、東進47号に続き、宮本さんに執筆していただきました。あまりなじみのない競技ですが、これを機にパラリンピックにも興味を持ちたいと思っています。また、東進会総会では立川志のぼんさんの落語もとても楽しみにしています。(星川)